

阿岐のまほろば Vol.11

てん びょう いらか
天 平 の 麓

しせきあきこくぶんじあと きいじょうちようよしゆき
史跡安芸国分寺跡（西条町吉行）



遺物の詰まった溝



古代の瓦や須恵器

奈良時代に諸国につくられた国分寺は、ここ安芸の国では、西条町吉行につくられました。

現在の庫裏（金堂跡）の東に隣接した場所を調査していて、奈良時代から現代までにつくられた溝や建物などの跡が見つかっています。

写真は、北から南に流れる溝で、この中には瓦や須恵器の破片がたくさん入っていました。これらの瓦は、奈良時代に金堂の屋根を壮麗に飾っていたのでしょう。



安芸国分寺跡位置図（1:50,000）

弥生のムラ発掘

西本3・4号遺跡（高屋町杵原）



作業風景

西本3・4号遺跡は、高屋町杵原の丘陵上に位置しています。

学校のグラウンド造成事業に伴い、平成9年5月から発掘調査を実施しています。

調査している地点は、調査以前の開墾により、段状に削られていた他、瓦粘土の採取で大きく掘削されていました。しかし、全体的には保存状態は良好で、当時の地形をよく留めています。

調査の結果、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡・貯蔵穴・柱穴などの遺構が数多く見つかりました。そのなかでもひときわ目をひくのは、右の写真の調査区西側に、地形に沿って並ぶ数列の柱穴群です。建物の柱穴にしては、間隔が狭く、直線ではなく曲線を描いて続いています。柱穴群の内側には竪穴住居があり、用途としては、防護のための柵の跡などが考えられます。

この時代に何重もの柵をして住居を守らなければならない様な戦争があったのでしょうか。想像は



柱穴群



石製品出土状況

ペンダント使用例

膨らみます。

たてあなじゅうきょ
竪穴住居は、調査区全体で12軒見つかりました。このうち5軒に建て替えの跡があります。弥生の人達も手狭になった住居を増改築していたのでしょう。

住居の中からは、土器（壺・甕など）・石器（砥石など）・鉄器が見つかりました。上の写真は、住居の埋土から出土した石製品です。この石製品は、一部が破損していますが、端の方に穴

が1つあけられ、全体がよく磨かれており、きれいな薄緑色をしています。見た目も大変美しく、装飾品として使っていたのでしょうか。上の右の写真はペンダントとして使用した例です。

また、ほかの住居からは、ミニチュア土器と呼ばれる小さな土器が出土しています（左下の写真）。ミニチュア土器は、実用品ではなく祭祀用だといわれています。土の堆積の様子を観察すると、この住居が意図的に一気に埋められたことがわかりました。ミニチュア土器は、壁際のしかも、床のすぐ上に置かれていました。住居を埋める時にお祭りでもしたのでしょうか。



ミニチュア土器出土状況



西本3・4号遺跡位置図 (1:50,000)

江戸時代の街現る！

山崎2号遺跡 (西条西本町)



山崎2号遺跡は、平成8年度から2次にわたる発掘調査を実施してきました。(Vol.8)

今年度の調査地点は、平成8年度に実施した調査地点の東側に隣接する場所で、江戸時代の街がしだいに姿を現してきました。

今回の調査では、井戸跡、柱穴跡、溝、土壇などが見つかりました。

井戸跡は、素掘りのもので、調査中も一夜にして水が満杯になるほど水位が高い状況でした。この井戸の水は、飲料水や遣り水などに幅広く利用されていたものと思われます。

柱穴跡は、柱の痕跡が残っているものや、穴の底に石を敷いて台にしたものなどが見つかります。あまり大きな柱穴はなく、小規模な作業小屋などが建っていたものと思われますが、調査範囲内で柱穴が完全に揃った建物跡は見つかって

ないため、建物の構造や規模は今回の調査だけでは明らかにすることはできませんでした。

また、溝からは、たくさんの土器や陶器などが見つかりました。溝は調査範囲の外まで続いているようですが、建物などの遺物が流れ込んだものでしょうか。

調査で見つかったものは、これから整理していくこととなりますが、江戸時代の街のようすがしだいに浮き彫りになってくるものと思います。

(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol.11

発行日 平成9年11月14日

編集・発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
東広島市西条町大字馬木541-1
TEL 0824-25-3880 〒739

印刷 中本総合印刷株式会社